

2021 年度 大学院生命創薬科学専攻 博士課程(後期)シラバス

明治薬科大学大学院薬学研究科

目 次

学術論文作成・発表演習	1
学術論文総説講演Ⅱ	2

明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻博士課程（後期）

2021年度（必修科目）シラバス 1年～3年/通年

科目名：学術論文作成・発表演習

Training for preparation of journal article and practice for presentation

科目責任者：大学院研究科長

演習概要(学問分野、主たる講義項目)と目標：

第一線で活躍されている国内外の研究者の講演会に参加するとともに、卓越した関連論文を読みこなす。研究の目的、背景、実験結果と考察、研究成果のまとめ方とともに、計画通りに研究が進まない場合にどのようにして問題を解決したか、などについて修得し、優れた学術論文を作成するために必要な知識と技能を身につける。

演習計画：

回数*	担当者	テーマ	内 容
1～10	所属研究室の指導教員	具体的な実験結果から新規性、独創性に富み、再現可能な研究成果を抽出し、優れた学術論文作成に必要な技能を養成する	第一線で活躍されている研究者の講演に触れ、プレゼンテーション技能を修得する。講演者の学術論文を熟読し、論文のまとめ方(研究背景、テーマ設定、論文の概要、序論、本論、実験結果と考察、結論、実験項、参照文献など)を修得する。仮想的な論文審査を通して、客観的な評価法を学習する。

*在籍期間に10回

テキスト：学内外で開催される学術講演など

1. 大学院特別講義
2. 大学院若手講話会
3. 国内外で開催される学会の特別講演やシンポジウム等
4. 国内外の学術雑誌投稿規定など

準備状況(予習・復習)

予習：参加を希望する講演会の講演題目に関連する学術論文リストを作成し、研究背景と概要の把握に努める。

復習：講演内容とすでに発表された論文内容について、新規性、独創性、再現性などの点から整合性について比較検討し、学術論文をまとめるために必要な知識と技能の研鑽に努める。

参考書：

- 「科学者・技術者のための英語論文の書き方」 R. Lewis, N. Whitby, E. Whitby 著、東京化学同人
「一流ジャーナルから学ぶ科学英語論文の書き方」 平田 光男 著、東京化学同人
「英語で科学論文を書く人のために」 堀田 康雄、山下 三郎、大垣 雅昭 著、廣川書店

成績評価の方法：講演会における態度、レポートの内容など(50%)、仮想的な論文審査の妥当性(20%)、学術論文草案(30%)について総合的に判定し、評価する。

教員からメッセージ：在籍中に研究成果を学術論文として投稿し、掲載されることを目標として日ごろから努力してほしい。

明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻博士課程（後期）

2021年度（必修科目）シラバス 1年～3年/通年

科目名：学術論文総説講演Ⅱ

Lecture training including presentation and preparation of scientific review article Ⅱ

科目責任者：大学院研究科長

演習概要(学問分野、主たる講義項目)と目標:

国際的に優れた学術雑誌に掲載された英文学術論文を題材として、研究の目的、背景、実験の手法、考察などを正しく理解し、テーマ案を選定する。選定したテーマに関連する情報を収集し、プレゼンテーションの骨子を構築する。学内口頭発表会を主催し、質疑応答を経て、総説としてまとめ上げる。

演習計画:

回数*	担当者	テーマ	内 容
1～10	所属研究室の 指導教員	創薬研究を支える専門 性の高い学術研究に関 する総説講演	専門性・話題性の高い英文学術論文を熟読後、参考文献並びに関連資料を整理して、内容をまとめ、プレゼンテーションに必要な資料の作成を行う。この間、まとめ方、発表態度、質疑応答の仕方などについて適切な指導とアドバイスをを行う。

* 土曜日（6回）：専門学術雑誌の調査、内容把握、関連論文収集・整理

土曜日（2回）：テーマ選定と発表要旨作成

平日の夕刻（1回）：学内合同発表会（発表と質疑応答）

土曜日（1回）：総説作成

テキスト: 専門性の高い優れた英文学術論文

参考書:

「科学者・技術者のための英語プレゼンテーション」 R. M. Lewis 著、東京化学同人

「学会発表の上手な準備」 森川 陽・大島 一郎・高橋 孝志 著、講談社

「学会プレゼン新技術」 高橋 良治・中嶋 秀夫・小松 一祐 著、日本医事新報社

準備学習(予習・復習):

予習: 報告されている数多くの英文学術論文の中から特に興味あるものを選出し、総説講演までにそれを選んだ理由を担当教員に説明する。

復習: 担当した総説講演で指摘された箇所(発表内容、レジュメ作成、プレゼンテーション方法など)について修正・改善し、次回の総説講演や研究成果報告などに役立てる。

成績評価の方法: プレゼンテーション技能、態度および質疑応答能力、課題総説レポートの内容(90%)、質疑応答等(10%)を総合的に判定し、評価する。

教員からのメッセージ

優れた研究成果を見出せたら、それを領域の専門家はもとより専門外の方々に広く説明する必要があります。そこでは、優れたプレゼンテーションにより、できる限り多くの方々に興味を引いてもらい、客観的評価を進んで受ける姿勢が大切です。その意味でこの科目はとても大切な役割を担っています。

